



# 本当に？ 港区を2m持ち上げる！



海と川に囲まれ、地盤沈下も起きていた港区は、高潮による被害に悩まされ続けてきました。戦後の新しいまちづくりでは、高潮でも水につからないよう、なんと高さ2mも土を盛って港区を持ち上げました。



大阪港の発展とともに、工業や商業がさかんになった大阪では、工場やビルで使う大量の地下水くみ上げにより、明治時代からすでに地盤沈下がはじまっていた。しかし、その状況がくわしくわかったのは昭和時代のはじめになってからでした。大阪市は1934(昭和9)年から毎年1回くわしい検査をおこない、港区でも1935(昭和10)年から1944(昭和19)年の10年間で、**101cm**も土地が沈んだと記録されています。

この地盤沈下で高潮による被害がますます大きくなっていったため、戦後の新しいまちづくりでは、大阪港の修築工事ですでに土砂を使って、港区の土地に高さ2mも土を盛る区画整理事業がおこなわれました。世界でもめずらしい大規模なこの事業のために、港区の人たちは自分の土地を約4割も提供しました。およそ45年もの年月をかけて1992(平成4)年に事業は完成し、平たんで、まちの区画がわかりやすく、水害に負けない今の港区ができました。

## 区画整理事業中の港区

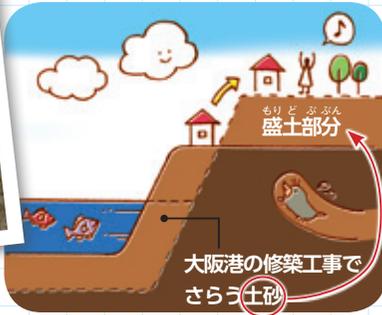
1948(昭和23)年

今の港区の形と比べてみよう！



戦争の後、安治川や尻無川の幅を広くして大阪港を使いやすくしました。その工事の土砂を使って土地を高くし、地盤沈下の問題も解決！





もりどごうじ しょうげすいどう どうろ  
盛土工事のほか上下水道、道路、公園、  
こうきょうしせつ せいび せいの  
公共施設の整備など。時代や状況に  
合わせて計画を変えながら、よりよ  
いまちの形をつくっていきました。

- ・ 建物をぼこっと持ち上げておいて盛土をする
- ・ 建物は動かさずに盛土をし、1階部分を地下にする(3階建て→2階建て地下1階)などの方法もありました。

今までの地面の上に土砂を高さ2m分重ねて地面を高くし、高潮でも水につからないようにしました(盛土工事)。

● 盛土工事のおこなわれた建物の工事例(曳屋工事)



いちおかしょうこうえん 以外の港区にある25カ所の公園はすべて、この土地区画整理事業で新しくつくられました。戦前は、市岡小公園、廃止された市立運動場、築港公園の3カ所しかありませんでした。

およそ45年間にわたる事業の完了を記念した「勝利の女神像」。池島公園にあります。

🔍 調べてみよう! ①  
じつは一部盛土をしていない地域もあります。いったいどんなところかな?

たんけんポイント



⑩ 勝利の女神像 (池島公園)  
ちかてつちゆうおうせん ちょうせうりょう ちょうせうりょう  
地下鉄中央線「朝潮橋」駅  
④出口より約500m

🔍 調べてみよう! ②  
盛土工事の反対運動をしていた人たちの意見を、賛成へと変えたあるできごととは?  
★1950(昭和25)年にあったことだよ。



# 港区は、災害に負けない力を今も強化中？



もりとこうじ 盛土工事の後には大きな高潮被害のない港区。防波堤をつくったり、津波のときに避難できるビルを決めたり、避難訓練をしたり、災害に負けないまちをめざした取り組みが、今もおこなわれています。



高潮による被害を大きくする原因になっていた地盤沈下を止めるため、戦後、大阪市では工業用の水道がつくられ、地下水のくみ上げが制限されました。その結果、1965(昭和40)年ごろには港区もふくめ大阪の地盤沈下は、ほぼ止まりました。

また、港区では高さ2mの盛土工事だけではなく、防波堤(堤防のこと)・防波扉・水門がつくられてきました。防波扉とは、人や車が通る場所に防波堤の代わりにつくる鉄の扉で、ふだんは開けたままですが、いざというときは水防団の人たち(2014年現在 約350人)が扉を閉めて水が入ってくるのを防ぎます。港区には今、長さ約18km分の防波堤、220の防波扉、2つの水門があり、高潮や津波からまちをまも守っています。



防波扉開閉の訓練をする水防団の人たち

こうした努力のおかげで、盛土工事をしてからは、大きな高潮の被害は起きていません。定期的に防波扉や水門の開閉訓練をしたり、防災について地域のみんなで話し合ったり、避難訓練をしたり、災害にまけないまちをめざした取り組みが、今もひきつづきおこなわれています。



いざというときのための救命措置訓練

● いざというときは、津波避難ビルへ！

2011 (平成23)年に起きた東日本大震災のよう  
な「海溝型地震」(地球のプレートの境目が震源に  
なる地震)では、地震のあとに津波が起きます。津  
波から身を守るためには少しでも早く「高い」場所  
(建物の3階以上)に避難する必要があります。



自然の高台がない港区では、学校や公共の施設、民間のビルなど、耐震の基準を満たした3階以上の建物が「津波避難ビル」に指定されています。津波が起きそうなときは、まずここに避難しましょう。



津波避難ビルは、このマークが目印！

アーチ型の水門が川の  
上流側にだんだん倒れて…



まっただ様子。(試運転で)水門が開

港区には、安治川水門、尻無川水門の2つの水門  
があります。どちらの水門も、扉の幅は66.7m、  
高さは11.9mあり、いざというときは川の  
上流側に扉が倒れ、大阪湾からあがってくる高潮  
をせき止めます。

水門では、月に1~2回、確認・点検のための試運転がおこなわれます。

調べてみよう！①

いざというときの、自分の避難場所や避難ルートを知っているかな？

たんけんポイント

赤線は、防潮堤があるところ。



①安治川水門

地下鉄中央線「弁天町」駅  
①出口、JR「弁天町」駅北口より約850m

②尻無川水門

地下鉄中央線「弁天町」駅  
③出口、JR「弁天町」駅南口より約1.3km

調べてみよう！②

津波の速さは海の深いところほど速く伝わります。太平洋の真ん中(深さ5000m)での速さは？